

2006 年 東北大学附属図書館オープンキャンパス企画

理系の漱石



期間： 2006 年 8 月 2 5 日（金）まで

会場： 東北大学附属図書館 工学分館

『坊っちゃん』が数学教師となったわけ（1）

四国の中学校を舞台とした『坊っちゃん』の主人公は、新米の数学教師でした。松山中学を皮切りに英語の教師をつとめた漱石が、なぜ坊っちゃんを数学教師にしたのでしょうか？

実は漱石は、東京大学予備門時代に東京の江東義塾という私塾の教師のバイトをしていたのです。後年その時のことを「自分は英語で地理学や幾何学を教えた。幾何の説明をやる時に、どうしても一所になるべき線が、一所にならないで困った事がある」と回想しています。



松山中学時代の漱石（前から3列目左から2人目）

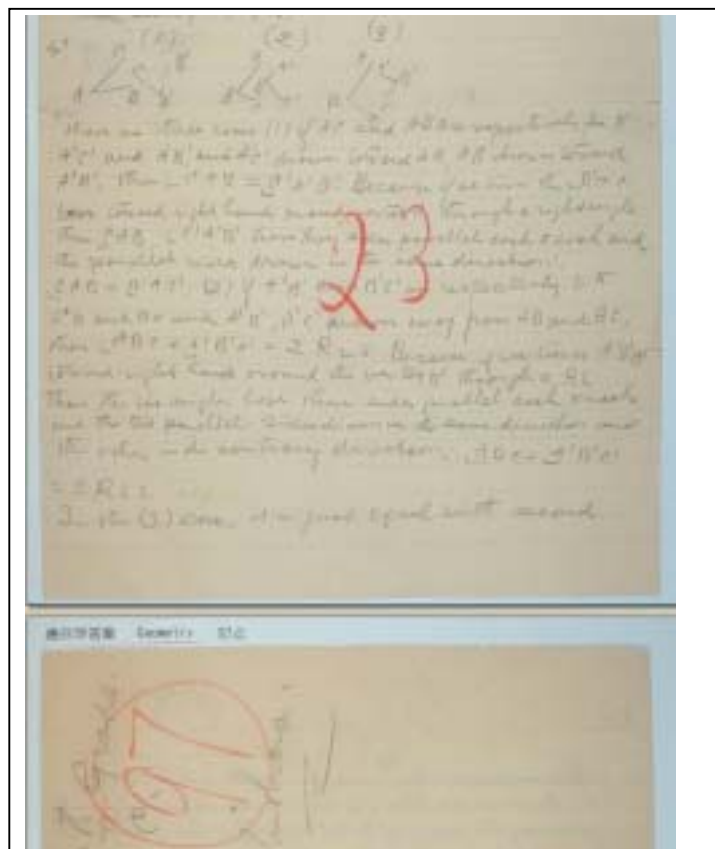
漱石が生徒と写っている唯一の写真

『坊っちゃん』が数学教師となったわけ (2)

さて一方、坊っちゃんの授業初日は、次のように描かれています。

「この調子で二時間目は思ったより、うまくいった。ただ帰りがけに生徒の一人がちょっとこの問題を解釈をしておくれんかな、もし、と出来そうもない幾何の問題を持ってせまったには冷汗を流した」

はじめての教師の経験が、坊っちゃんのいきいきとした描写を生んだのです。ちなみに、漱石の予備門での数学の成績は優秀でした。

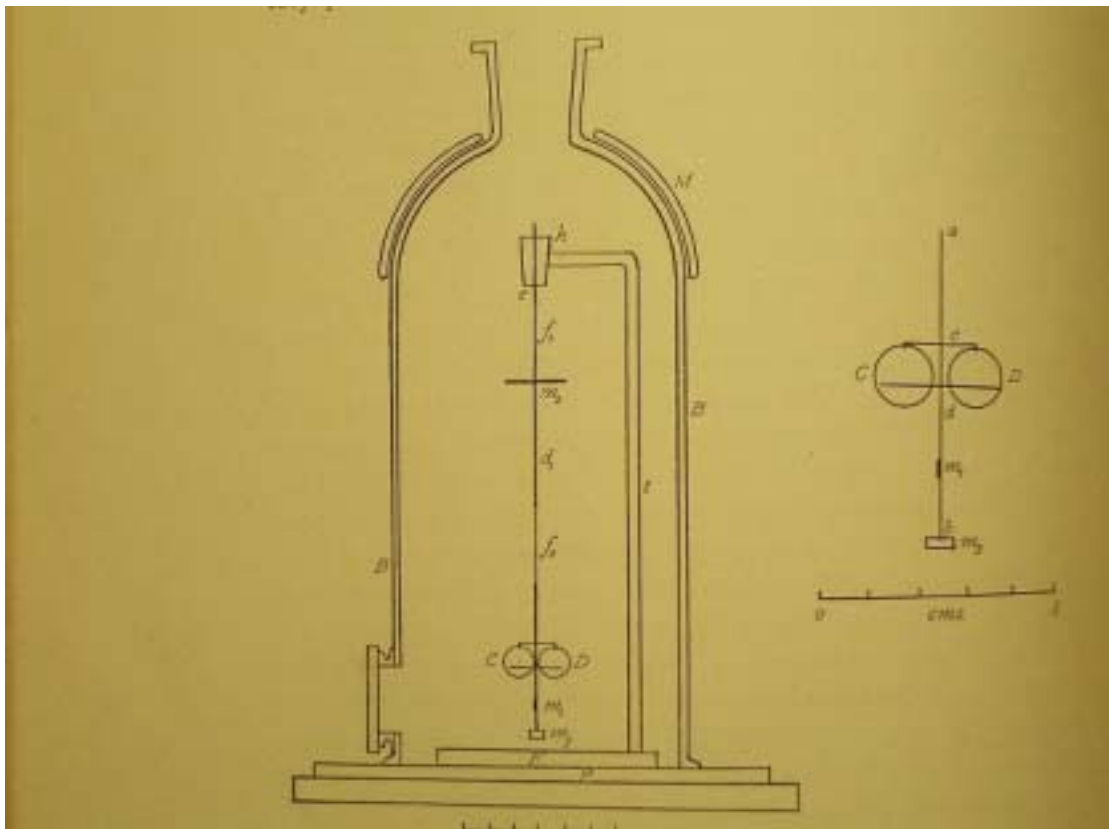


漱石の幾何学答案の3、4枚目
合計点数は97点となっている
(東北大学附属図書館所蔵)

三四郎池を生んだ物理学 (1)

『三四郎』の主人公が、東大理学部の実験室から出てから、池のはたで大学の研究について考える場面を覚えていますか？

三四郎が物理学者野々宮の研究室で目にした実験は、「光線の圧力」を測定する装置でした。すなわち、光は量子（粒子）であることを立証するため、光の放射圧を測定する実験だったのです。



光線の圧力実験の原著に描かれた実験装置

寺田寅彦が漱石に説明したといわれる

E.E.Nichols and G.F.Hull, The pressure due to radiation,
Physical review, vol.17, no.1, pp.26-50 (北青葉山分館所蔵)

三四郎池を生んだ物理学（2）

1905 年、アインシュタインは光量子仮説の論文を発表しましたが、光は「量子」であるか「波動」であるかの論争には、まだ決着がついていませんでした。まさにそのような時代に、『三四郎』（1908 年）は発表されたのです。現在ならば、ゲノムとかナノテク、バイオロボティクスを小説で描くようなもので、理系の漱石の面目躍如といったところですよ。

光の本質に関する物理実験が三四郎を池に向かわせ、「三四郎池」が生まれたといっても過言ではないのです。



東京大学の三四郎池

元々は加賀藩主前田氏の庭園「育徳園」の心字池
池の形が「心」という字をかたどっている

うま味を発見した博士との交友

明治 34 年（1901） ロンドンでスランプに陥っていた漱石が、ドイツでの留学生活から帰国する途中に出会い、2 か月間同宿した池田菊苗博士について、次のように述べています。



いけ だきくえ
池田菊苗博士

「 倫敦で池田君に逢ったのには、自分には大変な利益であった。御陰で幽霊の様な文学をやめて、もっと組織だったどっしりとした研究をやろうと思い始めた」

池田博士から受けた刺激が契機となり、科学的研究方法を意識した漱石の『文学論』が生まれたともいわれています。

さて、帰国後東京帝国大学教授となった池田は、その後実学に転向し、明治 41 年（1907）「グルタミン酸塩を主成分とする調味料製造法」の特許を取得し、味の素の実用化を果たしました。漱石の朝日新聞入社（明治 40 年）が、池田博士の実学転向に影響を与えたのだとしたら、二人の交流が漱石文学と味の素を残したといえるのではないのでしょうか。

寺田寅彦との時空対話（1）

漱石と寺田寅彦は、熊本の第五高等学校で教師と生徒として出会い、終生交友を続けました。

大正4年（1915）漱石は、寺田宛に次のような手紙を出しています。

「小生のとるアセニームという雑誌に『空間時間の理論』という書物の批評があるから御目にかけます。（中略）此間の話で君が時間空間の研究中だという事が解った故御参考までに御覧いれるのです」



寺田寅彦

『吾輩は猫である』の寒月、
『三四郎』の野々宮の
モデルになったといわれる

寺田寅彦との時空対話（2）

この書物は、アインシュタインの特殊相対性理論の研究書であり、寺田と漱石はその相対性理論を話題としていたのです。

この手紙の翌年（大正 5 年）漱石は 49 才で死去しますが、晩年まで最先端の科学に興味を持っていたことがうかがわれます。そして奇しくもこの年、アインシュタインは一般相対性理論を発表しています。アインシュタインが来日した大正 11 年まで漱石が生きていれば、きっと面白い出会いがあったのではないのでしょうか。



東北帝国大学の物理学科教授陣とアインシュタイン（大正 11 年）
（東北大学史料館所蔵）